

## 剛毅

## 米原高等学校

米原高等学校の部旗には「剛毅」の文字が書かれています。

先ず「剛」の字についてですが、「字通」や「字統」（いずれも平凡社）という辞典に「岡は鑄型に火を加える形を表し、鑄あがった器物を取り出すのに堅くなった鑄型を刀で引き裂く様子を示している」と言う意味の解説がありました。そこから「かたい」「つよい」「意志がつよい」「気が強い」などの意味が生まれてきたようです。

さて、論語の子路十三に「子曰く 剛・毅・木・訥 仁に近し」という文があります。「強い心（剛）、勇敢なこと（毅）、飾り気がないこと（木＝朴）、口数が少ないこと（訥）は人の道に近い」という意味です。また、明治31年に発行された「中学唱歌」に出てくる「箱根八里」〔鳥居忱（マコト）作詞、滝廉太郎作曲〕という唱歌に「天下に旅する剛毅の武士（モリノ）」という歌詞があり、勇敢に箱根山を踏破する武士の姿が唱われています。

これらのことから米原高校の「剛毅」は「惑わされることのない強い心と、何事にも屈しない勇敢な心」と言うような意味であると思います。

昭和38年米原高校創立と同時に剣道部を創部された文室常男先生は、「清純敦厚」の校訓のもと、真面目で心が篤く育っていく剣道部員たちに、さらに元気で強くなってほしいという願いをこめて「剛毅」と言う言葉を剣道部の座右の銘にされ激励された結果、部員達は発奮し数年後に大会で優勝するなど活躍をするようになったと聞き及んでいます。

かつて西円寺の住職であった香衣上人が緋色の衣を着ていたことにちなんだというスクールカラーの緋色に、この「剛毅」という文字をを染め抜いた旗の下、現在の部員たちも心篤くそして元気に稽古に励んでいるのです。